

米子の石田コーポレーション

中国で展開の事業 軌道

多角化で 逆風越え、一層の拡大目指す

事業の多角化を進める石田コーポレーション（米子市米原8丁目、勝部修二社長）の海外戦略が好調だ。中国吉林省延辺州の延吉市で山陰の加工食品企業のアンテナショップを運営し、現地出店しているラーメン店も軌道に乗った。日中の国際問題に揺れた時期も乗り越え、巨大市場でさらなる事業拡大を目指している。

（長曾本明）

同社は、主力の住宅07社に広がった。設備・土木環境商品販売 翌年には延吉市内に売を補完する異業種参入に乗り出し、中国で「神楽」を出店した。エムズビジネス展開を進めた。大都市近郊ではなく、経済成長の伸びしろが大きい東北部に着目し2011年、延吉市に現地法人を設立。

加工食品、農水産品などの卸売業を主軸にした商社で、山陰では大谷酒造（琴浦町）の日本酒、ユタカフーズ鳥取工場（境港市）の調味料なども扱っている。中国での取引企業は1

たため、2号店の出店も視野に入っている。

現地法人、延辺大山商貿有限公司の金弼総経理は「中国進出に伴う投資を回収し、さらに売り上げを伸ばしていきたい。日本の信頼される商品を中国で売っていく。尖閣問題は経営にとって逆風になったが、我慢して営業を続けた方がいいがあった。アンテナショップの取引先も増やし、毎年25%の増収を目指している。目標達成の自信もついた」と話している。



日本式ラーメンを提供する「神楽」の店内
中国・延吉市